

さんまた まつ
三股の松
(藤 江)

いま、藤江保育園前庭の土手のところは、むかし、「山の神」がまつられていたところでした。そこは、昼でも、うす暗いほどうっそうと茂った森になっており、きつねやたぬきも住んでいました。その中にひとときわ高くそびえ立って、陽光をさえぎっていたのは、三股の松と呼ばれる老松です。

根つこのところは、子供が十人もかかって、やっと抱えられるほどの太さがありました。上

の方で、幹が三つに分かれていたので、「三股の松」の名がついたのです。

この松は、成岩の「御用の松」、岡田慈雲寺の「凌雲の松」といっしよに、知多の三名松に数えられるほど有名な松でした。幹のうろにふくろうが巣を作っており、冬には、つるが飛んで来て、こずえに巣を作りました。衣浦湾を航行する船からも、三股の松の上でつるが舞っているところが眺められ、船乗りたちのよいめじるしになっていたほどでした。

この松の幹に、ずいぶんと昔に刻まれたと思

われる文字もじが残のこっていました。むかし、緒川おがわ城主じょうしゅ、水野信元みずののぶもとの軍勢ぐんぜいが知多半島ちたはんとうの南みなみの方ほうを攻めるとき、藤江ふじえの旧街道きゅうかいどうを通とおってこの三股さんまたの松まつの近くちかの八幡様はちまんさまに武運ぶうん長久ちようきゆうの祈願きがんに立ち寄よったことがあります。そのとき、侍さむらい大将たいしやうたちが、勝かつて再びふたたびこの地ちに帰かえつて来こられるようにと、この有名ゆうめいな松まつの幹みきに自分じぶんたちの名なを刻きざみつけたのがその文字もじだったそうです。その中なかに、「梶川かじかわ」の名なも見みられたといいます。

伊勢湾いせわん台風たいふう後ご、すつかり木きの勢いきおいがなくなり、枝えだも垂たれ下さがってきて、隣となり近所きんじよの住宅じゆうたくに危険きけん



な状態じやうたいとなったため、昭和四十七年しやうわ ねん十月がつに御神酒おみきと、祝詞のりとをあげて、惜おしまれながらも切きり倒たおされました。樹齡じゆれいは、五百年ごひやくねん以上いじやうにもなつて

いたといいます。そのとき、幹みきの太ふといところで、

亀崎潮干祭りの山車だしの輪わをとる計画けいかくがありました

だが、切きってみると、中なかががらんどろで、輪わに

することは出来できなかったそうです。